

東京都公文書館所蔵『南天竺漂流記』翻刻と解題

崎村弘文

【欧文表記】 Hirofumi Sakimura, A Document of Drifting, Nan-tanjiku Hyōryūki in the possession of Tokyo Metropolitan Archives: Text and Bibliographical Notes

著者は、文政十一年（一八二八）〜同十三年（一八三〇）の八丈島船・仁寿丸の漂流から乗組員の帰国に至る経緯を、鹿児島大学附属図書館玉里文庫所蔵漂流記『うばらがはな』の翻刻と解題を通じて明らかにしたことが有る。ここに取り上げる『南天竺漂流記』も、その一件について記されたものであるが、『うばらがはな』の序文に〈船の中或ハエミシのさかひにありて、かひつけし日次の記あり、潮にひたり、雨にぬれ、紙あざれてよみがたかりしを、さきに島【筆者注：八丈島】にてしるしかへたる〉として示された、仁寿丸船頭儀兵衛の日記の写しと見られる。写しと見る理由は、本文途中に虫損による判読不明箇所を指摘した部分があることや、〈歟〉として原本の文字が読みづらいことを示した部分があること、また、明らかに誤写と見られる部分（4丁表・5丁裏・12丁裏などの〈残截【さんぎり】〉の〈截〉文字体等）

の有ることからであり、おそらくはそのように見て差し支え無いものと考えられる。同書伝本は東京都公文書館所蔵本のみのものであり、『国書総目録』等に記載が無い。同本をコピーの形で閲

読し得たのは、数年前、元八丈町長・笹本直衛氏より該コピーを御贈り頂いたことに依る。コピーが大きき等に関して原本の趣きを伝えていかどうかは分からないが、丁数等に関しては次のように云うことが出来る。即ち、外題は『慶應貳寅年／清國漂流書類／文政拾貳年／南天竺漂流記（表紙左上に打ちつけ書き）』、内題『南天竺漂流記』、本文墨付き17丁、毎丁〈東京市〉用箋に一面14行、一行17字程度を宗とする。本文中、所々に原本行末を示す句点有り。詳しくは、翻刻を参照されたいが、あまり手慣れた人の写しとは見受けられない。おそらくは、明治以降の東京市吏員の手に成るものである。ともかくも、これにより儀兵衛の日記の内容が窺い知れるわけで、或る意味、貴重な発見と云つて良いように思う。笹本氏に感謝申し上げる次第である。

【注】

1 以下の稿より成る。

○ 「漂流記『うばらがはな』翻刻と解題」昭和63年（鹿児島大学文科報告）24

○ 「同(2)」平成3年（鹿児島大学文科報告）27

○ 「同(3)」平成4年（鹿児島大学文科報告）28

○ 「同(4)」平成5年（鹿児島大学教育学部研究紀要）

45) ○ 「同(5)」平成7年（鹿児島大学教育学部研究紀要）

47) ○ 「同(6)」平成8年（久留米大学文学部紀要）11

○ 「同(7)」平成9年（久留米大学文学部紀要）12・13

○ 「同(8)」平成10年（久留米大学文学部紀要）14

【翻刻】

警へ巻號

文政拾弍年

南天竺漂流記

亦紙註

南天竺 漂流記	文政拾弍年本島個人有船江戸川ヨリノ歸途遭難シフイリツピン群島中ノ島嶼ニ漂着苦心慘膽シテ生還シタル記事
------------	--

東京府八丈嶋役所

「(1才)

文政拾弍^社年

南天竺之内嶋へ漂流記

弍弍七號

「(2才)

柄(榎)本兵五郎御代官所伊豆國附八丈嶋／金右衛門船沖船頭儀兵衛共水主七人乗／同嶋。便船六人都合拾三人乗組文政拾壹／年子九月。米穀糸木綿品、積入江戸川出／帆弍拾四日。浦賀着御改

濟拾月朔日同所／出船。高浦着三日同所出帆五日泊り嶋着／船拾日同所出船拾壹日八丈嶋八重根近／所。乗懸候處汐取悪敷被吹出其夜大風に／相成。難凌帆柱を伐拂楫損浪風任七漂。／流し翌丑年正月拾日嶋山を見出した／柱にて帆を懸其夜中其嶋を。乗はつし是／より西方に嶋三ツ東に。ニツ北にも（大國）／見え乗寄候處瀬戸海。の如く。浪和にて何」（3才）国共不知候老船老艘。相見へ近寄候處式／本柱にて凡五百石位。楫見へる木皮の様／〔?〕を合セたる）成帆にて右船を北の方へ／乗行候私共船は陸拾式參丁程沖懸置。／舢を卸鍋釜飯米少、積入。拾三人乗こき／付見請候得は砂の濱。遠淺にて候間積物／取揚舢も引揚置。諸々見廻り候得共人家／無之二付山へ登。見候得は火の煙見へ候／二付其方へを尋字林註。人之足跡目当に參り四丁程先に人の。形ち見付近寄候得は／小笠冠五人猿。儒伴の様成を着し式人大／牛の様成る物騎三人は長六尺位先は手／刃庖丁。様拔身の鍮を各二持丈拾四五足運來。棟字林註（林）立の様子に見請恐入只今にも」（3ウ）殺事と存候間。土下座にて手を合字林註之詞／懸候得供一向。不分先之詞も不知見合居／る計候牛に騎。候は女にて髪を額に巻附／字林註嶋の様成筒袖着し袴様成着候右女／共牛を下り。吠懸犬を追拂手にて仕形何／か。申候處見懸より字林註見へ候故手の仕形／にて国は。何く大將有りやと聞候得共一／向不分候。私共火打にてたはこを吞候得／は割たはこ。吳といふ様子にて自分小袋／を出候處。芝のたはこをまきてハじかにくわへ吞候又。男のさせるハ土やき物式／三寸位之竹を。付吸口なく頭は殘截にて／候男女共。数珠を首に懸候たはこを遣し／心易。なり船の圖を拵大風にて柱を伐楫。」（4才）取れ候事仕形にて見せ候鍮犬は

鹿。を取／仕懸に候牛は水牛にて角四五尺。程候何／か横文字に書とも双方何事も。不分誠に／困入候間舢置候處、連參色々の物を遣し仕形にて大將有やと替て。仕形見せ候／處天窓に月の輪を畫鼻。高き真似致候又／乳呑真似致候間是ハ。親子の事と存又腰／遣ふ真似致是ハ女房事存此者ハ親子夫／婦の事に有。へくと存候生國へ歸度色々仕方いたし。候得共何事も不分候又山へ連行き。木伐あけ爰に居よと云様子字林註飯／米。手道具持運吳候先に鼻高の真似。致候／は大將の事と相見へ其所、連行。真似致／候水主四人右者共同道にて行候処。砂原」（4ウ）の小家連行真似致候字林註土鍋にて。米の長／きを字林註粥焚為給候私共は彼山。にて地を涅水を溜此水赤色散能清し。飯焚／喰申候昼夜の陽氣此方之六月位。に覺候／野原に鷄あり右四人者も爰に歸來候又／案内を頼乗組三人在所行。道にて夜二入／途中泊候拾三日大將之所。行色、と仕／形致文字書候得共双方不分候。右三人楢／に懸ケ誠に力を落候由外拾人は。山下居／其事杯不申候此在所より役人躰之者兩／三人人足躰者連參り舢を。出せといふ仕／形候得共浪高く乗出し。かたく仕形いたし候得は縛楢懸首を切真似致トツルノ／しなへにて打廻し候間。無是悲舢出し元」（5才）船連參居處船に乗り。柱伐口船の寸尺を／取見分之様子にて歸り。候處大浪にて舢／轉し私共泳候得共彼。国者は泳をしらす／漸はいあかる役人躰。之者は歸り候人足／は火を焚番之様子。野宿いたし三人の水／主は楢を字林註。爰迄歸候又大將之字林註行と云仕形見分／の様子にて。舢の板子にて棚を拵帆二而／屋根を葺。かけ其夜泊り候大將は筒袖長／着物。天窓ハ殘截にて中剃致候「最字林註

月輪。／を出見せ候は大將之事と相見へ候」皮の。／冠皮の履にて年頃式拾七才位持道具は。／平弓鉄炮に候横文字書の物いたし喰物」(5ウ)ハ長米菜ハ鳥又玉子蕪の葉の様成ル物／に。白きもの塗給びんろふじを喰私共持／參。之味噌茶杯を手抓喰候候私ども。箸にて喰候得は笑候大將之名はトメ。ネコ附／人名はアソノウニウ〇モノクレ／マコウ〇バツセリヤウ杯と云音聲相／聞。日本をハハツホント云船をハバル／コと云行。をハマモウスト云此大將仕形／は元船を解。にて湊まで引付楫柱を拵生／国へ歸る。へく言仕形も致候拾六日大將／歸に連行。可申様子ニ付船并道具番致候／事仕形。致候得は四人残り置九人召連候／人足參。飯米手道具持連候女共来色事を／仕懸候。て着物吳と仕方いたし亀甲杯持」(6才)来取。替度様子候私共生國歸度色々物真／似。致候處砂に国之圖を書候而マネイラ／ン行。又チエナへ行日本へ歸ると仕方致／候此国はカガヤン此嶋々ハ〇カモケン／〇ボウヤン。〇ダルヒリンとの音聲南の／国不分候拾八日。大將より書付来り残／居候四人案内式人。添昼時罷在濱通歩行／此砂あつく浪の。きわを行候日二照れ顔／の剝る程候鹿を取候處附犬に駈出七鎗／二而鹿を突殺し。毛を燒落し生二而喰候／又式里程行。竹之筏の川渡をへ日暮およ／ひ野宿。いたし米にて持合候間葉鐘持候／故わかし。凌候拾九日山道に掛り木山か／や野を通川。に沓本の丸木橋拾式三間あ」(6ウ)り又七八間程の。も有山に卜夢も有昼過／村里へ着候。大將／行拾三人一所に／成酒を被下候女と。も櫛をほしかり色し／かけいたし芋等煮て給候。此大將の仕方／には外の大將行三日泊様子。に候治郎／義足痛難義の由仕方仕候。候得は沓人残／置候外皆々連行候

鍋飯。米にて持差添沓／人人足六人川船へ乗り。馬沓疋水牛疋疋／泳セ行候川筋両脇。野山にて蕪鉄の様成／高式丈程此木の。茅ばいより大竹の蓋／を仕懸け水を取所。瓶を居置其水を集候／村へ附小屋の様成。所へ泊候右瓶の水を／ランヒキニ懸焼酎を取。是より山道に成／役人は馬に騎疋痛有ハ。水牛乗セ行候此」(7才)邊木山茅野にて牛馬。沢山居候皆々急き／かけ行候故前後二相成。昼飯給不申夜半／頃在所へ附候牛方者。飯焚手前計喰候／年頃五十位男来り。アリウスと言是ハ礼／義候様二見得候此人。情深く鍋を賃薪を／呉れ飯を焚とおしへ。候ゆへ飯米少、有／合焚三人にて給候又手。前の所へ連行泊／め候括枕ア、ンヘラゴザを。賃候別々泊め漸／皆、打寄申候得共差添。役人行方しれつ／候朝飯は不喰難凌傘。沓本持合七候を米／と取替米沓升程を粥。に焚給候此前は川／湊にて廻船式艘横二。揚置候右役人も来／候此川差渡沓里。半程輿行不知候此川を／渡村へ附見物。大勢出候又廻船式三艘懸」(7ウ)居候家作は白。壁も見へ屋根はしゆる／の葉の様成ル。葺たり役所躰の所出る門／番に先ツ。劍の有鉄鉋持、片脇は劍を懸／片脇。銅乱懸白装束なり石の階を登大將／の。前出る大將五十位礼儀仕候得は日本。／長崎タイカウサマと式聲相聞候時は皆々。力を得悦候諸事相分可申色々聞候得／共。其外何事不分罷歸候此所紫檀黒檀。山取之俣突立なり途中にて七拾才。位人に／逢日本船流りと式聲被還候間。近寄尋候／得共一向不分候村寄合場連。行馳走有飯／粥肴鳥玉子杯差出候見物。大勢来候又川／船乗行所廻船四五艘有之湊。着仕村、揚／役所躰所出何か改の様子相済み。マネイラ」(8才)ン行と仕方致候得共何事も不分。寄會所／に差置役人沓人下人沓人差添夫食ハ。米／計

渡候鍋も無之候間近所情有入より鍋／を借塩を貰相凌候又役所出尋有之候得／共互に相分不申候見物人入替之来候此／所。手習の様子見候処土間に三間程有板／を置。是を机にし大竹沓本置腰を懸拾人／も揃。芭蕉葉如く物／書師匠ハ皮の十手／をもち。厳しく致候同式拾三日此所牛／ヒキ来木。繫大斧にて打殺村中割付候／此村寄合。何か讀聞有村用の時ハ役人帳／面出改候。掟を背候者は撻の上槽を懸候／又役所。呼出仕方にて被申聞候は○マネ／イラン行。仕形にて湊參る拾人ハ此船乗（8ウ）式人ハ残シ。儀兵衛長十郎又老人役人と／して斯船残り候／一。同年式月朔日川を乗出す此川筋ハ拾文／字に有片々木山片々は野原爰にて薪を／取水を入候此原に水牛沢山に候水牛。と／りには馬に乗駈出し馬乗ハ鳥の飛か。如／く候此船にて沓疋買菜致候其所。大海／乗出し北行計筋に候「五六日山を見懸通／候」七八日始終共嶋、相見へ候拾日の颯／船。見懸候處鐵鉋取出用心致候其夜／○マネ。イラン着仕川中横式間程興行／不知湊にて。萬国船入込色々風雅成船と／も数多く候。私共乗船ハ細キ川ハ引込候／此川口を車二て。川さらい大キサ式拾五（9オ）間程人足四捨人程懸り。其治ハ船にては／しけ候役船の様子にて。朱塗の船鐵鉋／を銜役人老人乗組拾人。對の装束にて／何か尋候處煙草と返答致候。積荷たはこ／と相見へ候右の方城と見へ、掘ハ石垣に／て所々に小家有之イシヒヤ。を仕懸又／先に劔ある鉄鉋を持白装束。にて廻居候／左りは屋敷様子候この国ハ。家作ハ石に／て作り屋根ハ瓦葺人物ハ。同様候拾三日／朱塗船にて私共引請來。村、揚りヲケシ／三人懸けし坊主也連行。左りの屋敷置／本字宥板を掛ケヲケシ三人。大勢居候詞／は双方不分筆紙被出候故。日本人

と書出／し候處點頭飯菜附出シ。喰様を見て其後（9ウ）に我等は福建人なり五月此地を去とて／書出し又此類家老軒あり。線香蠟燭をあ／け神信心の様子福德正神。書附懸物あり／曆もあり年號ハ違ひ。支干不違候吳服物／麻糸等積置候外。国の商人入込と相見／深切取扱候私共。仲間最初所老人途中に／式置。三ツに別れ候故案心不致信心計致／候右。式軒にて七日廻り養吳候米魚鳥瀬／沢。山之所候私共信心仕候故肉食不仕候／この。屋敷ハヲケシ三人居南北に門有り／門番ハ。鉄鉋弓なり長サ三間程丸サ四尺／程イシヒヤ。拾八挺有又此類家老軒相増／候我等ハ大。唐人なり正月より商來り五／月帰ると。書附見せ漸唐人様子相分り右（10オ）三人にて。順番二養ひ吳候此節陽氣土用／中位成り。白雨の外霖雨なく三月朔日に／なり候得共。右三人之様子不知候同日／此国に祭あり。老番ハ鉄鉋六拾人程白装束／束なり左の脇鉄鉋を持足を揃、次に太／鼓を合せ此太鼓の。大サ差渡五尺位四人／持なり次に（名はしれつ）三味線（の）組方（の）の。三人次は笛吹物六人にて揃脇は。拾／五六才ハ四十位まで男女指布衣服着。三／尺程の蠟燭に火を付持て何千人續居哉。目に不及皆美敷相見得候扱六拾才位女／人形。を片手ハ布を持片手ハ徳利を持た／るを四人。にてかつき行次に蓮臺の根成／二何か乗せ。ふくさを懸通る此時は見物（10ウ）人皆々土下座。致候其見物大勢なり其町／にてハ表蠟燭を。燈し大賑ひなり五日ま／てなり唐人致ひ候は平日は此所も不行／此頃呂宋の人。悪敷故附合を不致由なり／退屋時唐人を。頼見物參式町程の間ハ牛／圍。鹿等の肉計。又式町程八百屋物斗り川／岸通は肴貝。類を棠其外町々吳服物喰物／日本に替事。なし此国の錢ハ六なく役人。／ハ車乘牛式疋。

揃て引せるなり同月拾八ノ日舞臺を造りて。芝居あり藝も口せきもノ不見物の前に。ハ見事成挑灯を付賑にノして馳走色々有。唐人のケン算盤碁杯はノ替る事なし。女良ハ傘者本持毎日拵引揚ノ六文より。は^七文迄なり行当り何方にて(11才)も男に逢。なり科人ハ老ツ繩に縛り所ノのそうじ致。其上ろふへ入置なり此国のノ者懸りにて唐人。へ木水を入るなり唐人ノ賣物ハ呉服物ハ。麻糸傘瀬戸物類唐人ノ買物ハ紫檀黒檀。蘓芳^蘇ツツル○キノコノ之類なり四月朔日私とも乗セ来候船婦ノ帆いたし荷物積入又候入船。仕候得共跡ノ残り候三人の様子知れ不申。苦勞いたしノ信心計致候同六日唐人役人。仕方にて炊ノを連湊行候得共相知不申渡り。船来此船ノへ乗れとの仕方致指遣し^三本^出。先に居ノると仕方見請候間其渡ノ船乗行候而。右ノ三人者逢双方大悦仕候又解揚に取揚。手ノ道具^并元船ノ揚候糸少々木綿三四十反。(11ウ)送届候はしけ船積入候處其船乗轉し。助ノ船出し漸々取揚唐人役人呂宋三役人。立ノ會相改候得共凡盜取候糸少々唐人の世ノ話二而。水洗干立貫目改候處拾^三百ノ目書付。差出候此糸賣渡候様に書付差ノ出候得共。打置候處度々申候間賣渡不申ノ候而は宜かる間敷一同評義仕候船頭申ノ候は日本へ。持歸り度存候處理不尽仕取ノ迺同様にて。無是悲次第に申候同拾日唐ノ人申候は。福建迄送り行へく處迎替に相成呂宋船。行積成^儀弥明日出立之支度可ノ致と申候拾五日。南風役人并宿三軒ノ銀ノ百五拾三枚呂宋。役人へ相渡し昼過出立ノはしけ船に乗宿。唐人見送り涙を流し候(12才)拾^三町沖に。三本柱にて千五百石位之ノ船に乗右銀五拾枚唐人^船役人ノ請取候ノ暮時便船唐人拾三人。有之私とも賄は唐ノ人方^三而いたし候此船水主。三拾人程候北ノの方

候此船の舳二人形時計在り。時のノ鐘遠目鏡仕懸候何事も日記留候様子。帆ノ数ハ四拾八枚有之候式拾四日○コカヲノへ着船候。座敷船にて引取に來皆残きりノなり中二は。唐人も居り^なけ^ば其所上ノ陸仕候此国。商賣は女にて小舟乗あるきノ候唐人も多居候。私共は残截引取大藏造ノ之家入置^ユサマク。ラ團扇手拭相渡候夫ノ食は朝粥昼夕飯菜。肴鳥類を附たはこハノ日々渡候此国は唐人の領分にて残截借(12ウ)地と相見へ候唐人の。大將三人被來私共ノ拾三人御呼出し御改。之上老人前銀四枚ノ宛被下候殿様輿に乗り。下役は馬に騎供ノ廻り大勢あり鉦を鳴し。笛を吹賑敷候右ノ銀兩替にして八百文上下。通用に遣仕候ノ此国朔日拾五日は賑候五月。拾五日宿亭ノ主所々見物連廻候町々屋根。下まで燈ノ明をともし見事相見へ候一日に。見渡程ノの離嶋成萬国入込故に賑ひ候。六月拾八ノ日殿様老人差添川船にて出船。大海ノ續ノ候川にて両方は田計なり拾九日。宿^江附ノ又船老艘仕立殿様乗移式船に。相成右同ノ所に乘行此国米八両三度作り。田畔^あなしノ海ノ續候水場にて首ハ船にて。積運候式(13才)拾^老日宿ノ着唐人便船三人乗會候。此者ノ書付為見候は我国は中国なり是。より南ノに当り小人国大島多し此の地の人。丈三ノ尺程あるよし拾人以下あるく時は大島ノ引きき^航かよし咄しいたし候此邊諸作あり。是まで所々に香山と^出き^而幡^を立^番ノ所。あり此船を見ると鉦をた々き又船にノても合。七候川筋船多く荷物も大造に見ノへ候。廣東着仕候大川にて萬国船ノ入込ノ候川舟二。拵女拵山船商船多く有之其町々見事に。相見へ候殿様御揚り下役にてノ引渡萬国の。客屋敷連行候手道具は人足ノ持運候役人。老人飯焚老人差添飯菜肴鳥ノ青物類に候。此国は式食なり長屋に弓稽(13ウ)古有之

手細工。馬腦ウマノウ石にていろく拵挑／灯張あり商ひ替る。事なく家作は石壁屋／根ハ瓦葺通筋は。切石を敷木綿の日覆ひ／致候乞食ハ見かけ不申。女ハ見せ先き通／筋出不申女の小供ハ幼少より足を巻ふ／とくならざる様に致候よし頭の筋ハ。見／事候七月拾日外国より客来り且將老人。／供廻りは六七人人物ハ坊主にて前にシ／ユミセンユミセン文字ハ横に書候献上物持／參の様子なり。廣東邊祭ハ朝廷に蠟燭線／香を立金銭を。焼夜ハ挑灯を附其外替事／なく候八月朔日。焔ウツ者書出候は昼飯致／し即去書付候而支度。仕無間も腰札ウサ持／差添老人南京へ連行。と手道具人足持（14才）川邊出座鋪船式艘。仕立老艘は殿様差添／乗老艘にハ私拾三人。役人五人乗賑々敷／夕方出帆山川を乗兩脇は田畑なり西北へ乗川十文字所も。有宿場も有川筋船／賑か也高山之田。茅野竹山杯も有又筏の／上に小屋を懸。拾人計り乗流候板木問屋／七八町も續見候。拾六日江西言所へ着大／家の宿屋泊り。差添役人々大安信致セト／書付にて線香。蠟燭相渡し候拾七日私共輿に乗セ此国の。役人差添山道中に懸り／手道具ハ人足持。厚情成事糸涙の出候程／候道筋ハ石を敷。兩脇ハ田畑なり荷物持／運の往来にて茶屋。飯屋いそがしく飯次／械ウツハ水風呂桶程あり。飯ハ平手にて盛（14ウ）荷物ハ呉服物菜種茶。の類の様子候暮ハッ時宿着大家泊り此宿。雪隠五間四方有／深サ老丈程油石灰ニ。塗候又石橋あり此／上に小家造住居候拾。八日船に乗風風にて丘場先くにて船を。乗替候大海の様成／所も有細所もあり。宿場を通所も有九月／拾日宿泊り拾壹日。輿ウツにて道中漸江附／五拾程行船ニ乗候。此邊拵女躰賑なり式／拾日宿場着老里程。行寺に泊る本尊拾老／面觀音なり。和尚ハ。庫裏座し私共喰物は／外にて

焚入候。式拾壹日船乗差添役人書／出候は拾貳月貳日三日。頃家中耳と書候／得共分兼候是迄差添。深切のよしセ話ニ候病氣者ニは醫者を。懸又銘々へ葉を渡（15才）冷物は為給不申其。行届辨舌述かたく候／式拾四日宿へ着年頃。六拾才位の人来り／ヤレヤレ国ハ何あ早く支。度し屋敷行何／国の嶋トと可申上と咄し。候時は地獄で佛／に逢とやら其嬉さ言事。なく初而言葉圖／承り安堵仕候御前にハ日本へ御渡候や／と承り候處若時る度々長崎へ渡ニ当年／未其船帰候と咄明なり。扱差添役人同／道にて屋敷出殿様と行。此国の大將引取／生国人数漂流の月日。船の大サ荷物訳御／改相濟則此屋敷差置候。最初の人は日本／の通事なり爰は。日本通船の船主にて船／八艘有之屋鋪。式サ所持且那は南京之由／所は乍浦サと言湊なり喰物は朝は粥昼夕（15ウ）飯菜肴類鳥青物類沢山あり御手当ハた／はこ式參日置ニ。被下通事添洗湯參湯錢／先、手拭にて。五文自分手拭ハ四文湯ハ／米の粉からを焚。又佛神の御利生にて助／事故信心可致。通事差添佛神へ參詣為致／又線香蠟燭。代老人前錢百文宛渡候蒲團／布子頭巾。足袋履シユ口ノゴサ相渡候長／崎る帰国の。船祝ひ芝居有役人老人通事／老人。附添大役と同座にて見物仕候藝の／振。合人の込事替りなく候女は老人も不／出候。拾壹月式拾四日役所呼出し別れ盃／酒肴。三拾八品被下候式拾五日式艘乗分／七人ト。六人ハ取為致差圖故に左之通／仕候其。夜部屋にて海上安全御神酒其外（16才）色々侍金紙焼祭振舞あり式拾九日北風／にて出帆。其夜汐懸り拾貳月式日唐国に／乗離候同五日。小嶋見へ候はハ女嶋のよ／しに候同九月薩摩国瀉浦江着式拾六日／出帆寅正月三日。瀉浦出戻候薩摩役人中／へ願入湯揚候而。色々御馳走被下候七日／同所出帆

八日天。草崎津湊着滞船役所願／入湯仕候拾八日。薩摩天草の漁
 (鯨) 船百式／拾艘にて引拵嶋。に懸り同拾九日夜長崎／着仕候
 式拾壹日。長崎御奉行所へ引渡し／に相成御吟味。に相成諸持品
 御預り揚屋／被仰付昼飯。被下置候役人差添揚り屋參／り先般。
 六人之内三ッ根村助治郎船中に／て病死。長崎の寺へ葬り候。三月
 七日儀兵(16ウ)衛佐助。御呼出再吟味有之候拾四日儀兵／衛
 長。十郎御呼出し御呼に五月拾五日又／々御呼出。口書相濟船中
 惣代萬助便船代／佐助。一回^下仕候拾六日御呼出御奉行／所。
 無御構諸事之品被下置唐錢八御引替／に。相成八丈嶋地役人山下
 平次平受取中／組屋。町浦田久右衛門方旅宿仕候式拾六／日同所。
 出立六月拾四日大坂着七月五日／江戸着。鉄炮洲嶋宿庄治郎方旅
 宿仕候掟／写。置也。

船頭

儀兵衛

德藏

佐助

重五郎

留吉

長十郎

万藏

助次郎

長助 (17才)

八五郎

万助

竹次郎

龜治郎

拾三人

(17ウ)